A21 南西諸島のイエバエ科 4 新種と 1 新記録種

篠永 哲 (東京医科歯科大学・医動物学教室)

Five new muscid flies from Nansei Islands, Japan.

Satoshi Shinonaga (Dept. of Med. Zool., Tokyo Med. & Dent. Univ.)

Kano and Shinonaga (1977) は、南西諸島から 20 属、59 種のイエバエ科のハエ類を報告した。この中には、種名の決定していない 6 種が含まれていたが、これらは、Shinonaga and Kano (1977) により新種として報告されている。それ以後には、新たな新種、新記録種の報告は見当らない。演者は、これまでに南西諸島で採集したイエバエ科のハエを整理した結果、これまでに報告されていなかった 4 種の新種と 1 新記録種を見いだしたので報告する。新種は、トゲアシイエバエ属 (*Phaonia*) 1 種、ハナゲバエ属 (*Dichaetomyia*) 2 種、ホソイエバエ属 (*Helina*) 1 種で、ミズギワイエバエ属 (*Limnophora*) の 1 種は、新記録種である。4 新種は、全てこの地域の固有種と考えられるが、中国や台湾にも分布している可能性もある。あわせて、南西諸島のイエバエ科ハエ類についての総まとめをおこなう。

A22 マレイズトラップによるイヨシロオビアブの発生消長調査

渡辺 護 (富山衛研)

Seasonal occurrence of Ororo-tabanid fly, *Hirosia iyoensis*
using the malaise traps.

Watanabe M.

従来からの二酸化炭素 (CO₂) 誘引トラップでは、第 1 回目の産卵を無吸血で行うイヨシロオビアブの、真の発生消長を捕捉した事にならないのではないか？と云う疑念があった。そこで、非誘引型のマレイズトラップを用いて、その疑いを明らかにしようと試みたので報告する。タウンス型と同改良型を 1998、99 年に、イヨシロオビアブの多発地 3 地点において、幼虫生息場所の林内と、1 回目産卵後の成虫が集ると思われる道筋に張った。その結果、移動の道筋定点に比べ、林内定点での捕獲数が顕著に少なく、明確な答えは得られなかった。しかし、CO₂ トラップでは捕獲されない雄が捕れるとともに、雌個体の解剖成績から、林内での発生消長は、川原でのそれよりも 1 週間ほど早いことが示唆された。